

教職支援室便り

1 月 号
平成27年1月 9日 (金)

文責：教職支援室 山本 寛 幸
☎ 0985-20-4808

26年実施の教員採用選考試験(英語)の合格者数、倍率等

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

下の表は、九州を中心とした平成26年実施の教員採用選考試験(英語)の合格者数、競争倍率等です。

現在、教員採用選考試験は、九州地区の中学校では、大分県、長崎県、福岡県が長期的な採用増加期に入り、競争倍率も少し低下傾向にあります。しかし、高等学校は依然として厳しい競争が続いています。

また、表に見られるように、採用選考状況は地域差が大きく、全体倍率は自治体により3.7倍から26.0倍とかなりの差があります。いずれにせよ、教員採用選考試験を突破するには、英語力を高め、計画的に試験勉強に取り組む必要があります。

県名	校種	(A)受験者数	(B)一次合格者	一次倍率 (A)/(B)	(C)合格者数	二次倍率 (B)/(C)	全体倍率 (A)/(C)
宮崎	中	110	14	7.9	7	2.0	15.7
	高	52	8	6.5	2	4.0	26.0
	小英	16	6	2.7	3	2.0	5.3
鹿児島	中	147	32	4.6	15	2.1	9.8
	高	45	8	5.6	2	4.0	22.5
大分	中	77	35	2.2	三次16		4.8
	高	57	10	5.7	三次5		11.4
長崎	中	60	24	2.5	15	1.6	4.0
	高	36	12	3.0	6	2.0	6.0
佐賀	中	53	19	2.8	13	1.5	4.1
	高	35	12	2.9	7	1.7	5.0
	小英	13	9	1.4	5	1.8	2.6
福岡	中	158	69	2.3	36	1.9	4.4
	高	163	38	4.3	25	1.5	6.5
福岡市	中	95	36	2.6	10	3.6	9.5
	高	13	9	1.4	3	3.0	4.3
高知	中	47	12	3.9	5	2.4	9.4
	高	41	8	5.1	3	2.7	13.7
山口	中	70	40	1.8	16	2.5	4.4
	高	43	24	1.8	6	4.0	7.2
広島	中	194	74	2.6	40	1.9	4.9
	高	99	29	3.4	18	1.6	5.5
兵庫	中	289	93	3.1	45	2.1	6.4
	高	233	111	2.1	55	2.0	4.2
神奈川	中	208	109	1.9	45	2.4	4.6
	高	302	204	1.5	80	2.6	3.8
東京都	中高	981	360	2.7	246	1.5	4.0
千葉	中高	493	248	2.0	135	1.8	3.7

※宮崎県と佐賀県の「小英」は、小学校高学年で実施予定の教科英語に備えて実施された小学校英語の合格者数等です。

※現在、沖縄県、熊本県は教科ごとの合格者数等を発表していません。

宮崎西中学校「英検二次試験対策」に本学生32名参加！

毎年、宮崎西中学校の生徒が受検する「英検二次試験」の対策に、本学生が学校支援ボランティアとして面接指導に参加しています。本年度（平成26年11月28日～12月6日）も32名（4年生7名、3年生10名、2年生13名、1年生2名）が参加しました。

当日、会場3ヶ所に分かれて、写真のように学生と中学生（準2級受検5名、3級受検40名、計45名）が1対1になって面接指導を行いました。

また、宮崎西中学校英語科の小玉先生（本学卒）から、「宮崎公立大の学生の皆さんののおかげで、3級受検1名を除いて、他は合格しました」と嬉しい言葉をいただきました。



卒業生 川越智子教諭（東京都） アメリカに派遣

本年度から、東京都教育委員会は英語科教員海外派遣研修事業を実施します。これは、都内の公立中学校と高等学校で英語を教える教員から選抜し、約3か月、海外の大学等に派遣し、最新の英語の教授法の講座や実習など、集中的に研修させる制度です。帰国後は、東京都の英語教育の推進役を担うこととなります。

本学卒の大田区立大森第十中学校川越智子教諭（平成18年3月卒）が初事業の「英語科教員海外派遣研修生」として、アメリカ派遣の一員に選出されました。おめでとうございます。

1月4日（日）から3月21日（土）までの間、外国語（英語）教員海外派遣研修に派遣されることになりました。派遣先はアメリカのカリフォルニア大学アーバイン校です。この研修は、生徒が「使える英語」を身に付けられるよう、教員の指導力向上を目的に、東京都教育委員会が公立中学・高校の英語科教員の中から選抜して英語圏の国に派遣するものです。研修の主な内容としては、最新の英語教授法の講座（TESOL：Teaching English to Speakers of Other Languages）や現地校の視察、実習、教育機関等でのインターンシップなどがあります。宿泊先はホームステイで、滞在中の3ヶ月間は朝起きてから寝るまで生きた英語に触れることになります。



東京都の公立中学校には本当にさまざまな背景をもった生徒が通って来ますが、そのような生徒達に英語教員として自分ができることは「学ぶ喜び」を教えることだと信じています。この3年間は特に教科指導力の向上を目指してきました。中でも年に1度は実施すると決めた区の研究授業や、都の中学校英語研究部員の先生方との交流は、自己研鑽の大きなモチベーションになっています。今回の研修では世界最先端の英語科教授法を学ぶとともに、生きた英語に継続して触れることのできる絶好の機会だと言えます。留学経験のない私にとっては、大変有り難い経験です。今、目の前の生徒のため、そしてこれから出会うであろう生徒のために、精一杯学んで来ようと思います。

スクールトライアル事業に本学から21名参加

平成20年度から宮崎県教育委員会では、教員を希望する学生のために、教員の業務に対する理解を深めるための機会として、教員の日常の職務内容を体験する「スクールトライアル事業」を実施しています。昨年度は、県内各大学から117名の学生が参加し、この事業に対する満足度は、かなり高いものでありました。本学も平成20年度からこの事業に参加し、今年度（平成26年9月～12月）は2年生21名が参加しました。参加者の学校体験の感想等を紹介します。

- ・教職に対する自分の考えの甘さ、そして、教職の魅力を同時に感じた3日間だった。今が4年生ではなく、2年生で良かったこと、この気持ちに早めに気づけたことは、これからの大学生活やすべきことも変わってくるのでとても良かった。（小学校体験）
- ・3日間の学校体験は、予想していたよりもはるかに中身の濃い体験となった。こういう先生になりたい、こんな授業がしたいとたくさん将来を考える上でプラスになるきっかけをいただいた。大変貴重な3日間が今後無駄になることがないように自分の将来を真剣に考え、より良い先生を目指そうと思う。（中学校体験）
- ・定期テスト前の忙しい時期に、母校で貴重な体験をすることができて大変感謝している。以前の担任から、「私たちの時代は、こういった体験はできなかった」という話を聞き、自分たちは恵まれていると感じた。しかし、大切なのはこれからの行動だ。授業のやり方はもちろん、生徒指導やその他多くの仕事を知ることができたので、これらをもう一度自分でまとめ、今後の学習に生かしていきたい。（高等学校体験）

教育実習の感想等

●今村彩菜さん（実習校：中学校、担当学年：1年生）学校規模：全6学級

《感想》

実際の学校現場でしか学ぶことのできないことを多く知ることができ、とても充実した3週間となった。自身が教員となって、生徒と関わっている姿がより現実的なものとなり、これまで以上に教員になりたいという気持ちを強く持てるようになったのも、私にとって大きな収穫だったと思う。教員として教壇に立つ際には、実習で学んだことを最大限に生かしていきたい。



《後輩へのアドバイス等》

うわさで聞くように、確かにハードな毎日だと思います。ただ、教員への憧れと強い意志を持っていれば大丈夫です。生徒達の笑顔のために、頑張ってください。素敵な教育実習になるよう応援しています。

●倉山武文さん（実習校：中学校、担当学年：2年生）学校規模：全15学級

《感想》

3週間を通して、改めて教員になりたいという気持ちが強まった。授業を担当させて頂く中で、自分の授業の課題、生徒とのやりとりの難しさを実感した。今回、実習をさせて頂いたことへの感謝の気持ちを忘れることなく、反省点の改善に努めていきたい。



《後輩へのアドバイス等》

初日から積極的に生徒と関わることで、授業を担当させて頂く際に、授業が楽しいと感じた。「実習させて頂いている」という感謝の気持ちを持ち、授業だけでなく、その他のことも積極的に取り組み、多くのことを学べる良い機会として欲しい。